



2023年11月13日

各位

会社名 テモナ株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐川 隼人
(コード番号: 3985 東証スタンダード)
問合せ先 取締役兼執行役員 CFO 重井 孝之
(TEL. 03-6635-6452)

通期連結業績予想値と実績値との差異及び特別損失の計上に関するお知らせ

2023年5月10日に公表した2023年9月期(2022年10月1日~2023年9月30日)の通期連結業績予想値と、本日公表の決算短信における実績値との間に差異が生じたので、お知らせいたします。

また、当社は、2023年9月期第4四半期(2023年7月1日~2023年9月30日)において、投資有価証券評価損を特別損失として計上することといたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2023年9月期通期連結業績予想値と実績値との差異(2022年10月1日~2023年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,328	△65	△64	△60	△5.68
今回実績額(B)	2,341	△83	△76	△127	△12.00
増減額(B-A)	12	△18	△12	△67	
増減率(%)	0.5	—	—	—	
(参考)前期実績 (2022年9月期)	2,253	△195	△194	△175	△16.50

2. 連結業績予想値と実績値との差異の理由

当連結会計年度は、「サブストア」及び「たまごレポート」のサービス利用アカウント総数や流通総額が減少したものの、システムの受託開発収益などが拡大するとともに、エンジニアリング事業の収益も加わり売上高は2,341百万円となりました。

各段階利益については、販売費及び一般管理費のコスト改善が進んだものの、受託開発収益の増加に伴う外注費の増加などの売上原価の増加も影響し、営業利益△83百万円、経常利益△76百万円となりました。

さらに、後述の特別損失を計上したことから、親会社株主に帰属する当期純利益は予想を大きく下回り△127百万円となりました。

3. 特別損失の計上について

当社が保有する投資有価証券について、財政状態や今後の見通しについて判定を行った結果、減損処理による投資有価証券評価損49百万円を特別損失として計上することといたしました。

以上